

1, 願いごと1つだけ

全校の願いごとを集めてCD-ROMにして, 仙台の七夕飾りにつけよう

2, 小学校 特活 5年生

3, コンピュータ活用のアイデアとメリット

インターネットを利用すると, 教室の枠を越えたダイナミックな活動が期待できる。

子どもたちにやさしいインターフェイス『FirstClass を使ったメディアキッズ』

開くと「森」をイメージした最初の画面が出てくる。操作も簡単で, 文章だけでなく画像や音声も, 遠くの友達に送ることができる。

4, 対応する学習指導要領の内容

小学校特別活動・5年生/A学級活動(1)学級や学校生活の充実と向上に関すること。

5, 指導目標

- ・インターネットを通じて, たくさんの人と交流できることを知る。
- ・自分達の手で, 計画・実践することの大切さに気付き, これからもみんなで協力しようという意欲をもつ。

6, コンピュータ活用のねらい

本学級には, インターネットに接続したコンピュータが6台ある。子どもたちは, 自分が使いたいと思った時に, 自由に使える環境になっている。

教師の方から「今日は, 天気調べをするので, インターネットで情報を集めましょう」とか「メールを読んで, いろいろな人の意見を知りましょう」などと言わなくても, 自分の問題解決のための情報収集やコミュニケーションの道具の1つとして, コンピュータを活用するようになることをねらっているのである。

7, 実践のポイント

本題材も, 子どもたちがメディアキッズ(インターネットを利用した学校間交流プロジェクト・全国約110校が参加)から見つけてきた「全国のみんなの願いごとを集めてCD-ROMにして, 仙台の七夕飾りにつけよう」とい

う情報がもとになっている。

(1) こんなおもしろいことは、全校に呼びかけようよ！

自分達が参加するのは簡単なことであるが、「こんなおもしろいイベントなんだから、全校のみんなにも呼びかけて、参加してもらおうよ。」ということになった。

さっそく、「どんなふうに全校の人に知らせるか」「どんなふうに願いごとを集めるか」という話し合いがもたれ、「願いごと1つだけ」作戦が開始されたのであった。

(2) みんなで仕事を分担しよう！

「昼休みに、1日1学年を招待する」「そんなにコンピュータができない人もいるから、一人一人が絵を描いていると時間がかかってしまう。KidPixで短冊を作っておいてそこに願いごと書いてもらおう」ということになった。そして、いろいろやることがあるので、みんなで仕事を分担することになった。

- ・宣伝係（ポスターで、全校放送で宣伝）
- ・チケット係（KidPixで作った。各クラス10枚配布）
- ・笹飾り係（学校の校庭にから笹をとってきて、飾りを作った。折り紙など久しぶりにやる男の子も楽しそう）
- ・短冊作成係（KidPixで4種類の短冊を作った。KidPixの機能を活用して素敵な短冊ができた。）
- ・パソコン係（パソコンで短冊に願いごとを書くやり方を教えた。低学年には、キーボードで入力できない子もいるので、KidPixの文字スタンプを利用した。一時、フロッピーに保存し、昼休みなどを使ってメディアキッズに送った。）
- ・受付係
- ・BGM係と待っているときに折り紙を教える係（コンピュータの台数が少ないための子どもたちの配慮である。音楽を聞いたり、折り紙で何かを折ながら、順番を待ってもらった。）
- ・デジタルカメラ係（大口台商店街の七夕の様子やいろいろな学年の人がやっている様子をとって、メディアキッズに送った。他の参加校の子どもたちから、全校で取り組むなんておもしろいねと返事をもらった。）

(3) クラスでやる初めての大きなイベントに、みんな意欲満々！

どの学年の日も大盛況！！

1年生は、「全員やりたいってっている！」という情報が入り、急きょ1年生のやる日を1日増やすことにもなった。

「1年生も、教えてあげたら簡単にやってた！」

「ポケモンになりたいとか、かわいい願いばかりだね。」

「校長先生が、きてくれたよ。やり方教えちゃった！」

パソコン係になった子どもたちは、自分達のやったことに対する手応えを十分感じて、目を輝かせて話してくれた。昼休みには、みんなが書いた短冊をメディアキッズに送ったり、プリントアウトして書いてくれた人に配ったりと、大忙しのパソコン係だった。

2週間に渡った「願いごと1つだけ」作戦も、150名弱（計画では120名の予定）の参加があり、大満足のうちに幕を閉じたのであった。

（4）9月には

9月になって、全国から集められた2000通に及ぶ願い事がCD-ROMに焼き付けられて、「仙台の青葉神社」に奉納されたことを、全校放送で伝えた。また、ご祈禱をしてくださった宮司さんからの「願いというものは、ご祈禱すれば神さまが自動的に叶えてくれるものではない。願いが叶うように私たち自身ががんばらなくてはいけない。」というメッセージも伝えられた。

低学年の中には、自分の願いごとがどうなったのかとか宮司さんの話とかは、さっぱり分からない子どもたちもいたことであろう。しかし、コンピュータって何だかおもしろそうという思いはもったことであろう。このように、コンピュータと心理的に親しくなることが、小学校段階では大切であると考えている。

また5年生の子どもたちも、「メディアキッズには、おもしろい情報があるから、これからも続けてやろう」とか「全校のみんなにもっと、コンピュータを教えたい」とかいう思いをもったのであった。コンピュータは、子どもたちが考えていた以上の効果を与えてくれたようだ。

8、子どもたちの反応

6月にクラス替えになったばかりの子どもたちは、この活動を通じて「みんなで協力すると、こんなおもしろいことができるんだ」という自信と、「またみんなで計画を立ててやってみたい」という意欲をもった。

そして、「コンピュータやインターネットっておもしろいことができるんだ」という思いをもった子どもたちも少なくなかった。

コンピュータを使いたい子が自由に使うクラスであったために、コンピュータやインターネットにそれほど親しんでいない子どもたちもいた。しかし、「KidPixで短冊を作ってみたい」「パソコン係になって、来た人にやり方を教えてあげたい」という思いをもった子どもたちは、休み時間にコンピュータの操作の上手な子に一生懸命に教えてもらう姿が見られた。

その後、教科でも、CD-ROMの百科辞典やメディアキッズやホームページが、活用されたことはいうまでもない。

子どもたちにやりたいという切実感をどうやって持たせるか，また，そういう切実感を持った子どもたちにどんな学びの場を用意してやるかが，教師の大切な仕事の1つであると感じた。